

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第10回

森の彫刻家 上床利秋

風神子 雷神子

ふうじんこ らいじんこ
〜ブロンズとシラス漆喰のコラボレーション〜

七月、都築教育学園から新校舎建設に伴うエントランスホールの壁を飾るデザインについての相談を受けた。

幼児教育短大生や園児たちが最も目にする機会の多いエントランスを飾る作品のテーマは何がいいのだろう。学園事務局長から説明を聞いた後、不安と期待の交錯した感情を持ちながら私はヘルメット姿で建設途中の工事現場に案内された。そしてその壁を見た瞬間に風神子雷神子をイメージしたように覚えている。

「風神雷神子図屏風」は江戸時代俵屋宗達の筆による国宝であり、日本で最も親しまれている名画の一つである。その風神雷神のことも時代を想定して表現してみるのは楽しい作品になるのではないかなと考えた。おりこうちゃんも、やんちゃんばうもみんな元気で仲良



俵屋宗達 風神雷神図屏風



制作途中の作者



「風神子雷神子」 筆者作 1.8m×2.7m シラス漆喰壁面にブロンズレリーフ

く明るく育ててほしいという願いを込めて。
それをブロンズレリーフとして壁に設置するのがいい。
単なるアイデアスケッチでは自分の想いを学園に理解していただくのは難しいと思ったので、実際に粘土原型を作りプレゼンテーションを試みた。それだけで自分の心は強い創作意欲が湧いていたのだらうと回想している。こうして学園からは壁にシラス漆喰を利用してブロンズとコラボレーション

ていくことでさらに豪華な作品になるプレゼンにゴーサインを出していただけだ。
主人公のブロンズレリーフは壁よりも10センチほど浮いた状態で設置した。

背景は新建材のシラス漆喰を用いた。その上からシラス絵の具を膠で溶いて描いていった。嵐の前の夕方にたまに現れる「狐の嫁入り」的な不思議な夕焼けの雲を場面にしてみた。初めて使用するシラス絵の具によるシラス漆喰壁への描画は、最初は戸惑いも感じただけれど、発色もよくすぐに手慣れてイメージに近い効果を出せた。いい経験をさせていただいたと思う。

この作品を見て育ったこともたちが、やがて大きくなって国宝の風神雷神を知った時、きっと特別な親しみを込めて鑑賞してくれることを期待している。



霧島市の絵手紙グループ「二見塾」の方々と共に風神子雷神子の据え付け工事を見守りました